

科目名	理学療法科学特講
科目責任者	矢倉 千昭
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 春semester
科目の位置付	2. リハビリテーション科学及び近接領域について高度な専門知識・技能を習得し、探求心と論理的思考力によって自ら問題解決を図ることができる
科目概要	理学療法科学領域における主要な理論、概念に精通し、理学療法科学領域の学問を深め、現在の理学療法の課題とそれを解決するための理論や方法論について考察する。本講義では、領域の最新の理論、知識、技術を修得し、新たな理学療法の理論構築と実践応用について文献を調べ、まとめ、発表、ディスカッションを行い、これらを通して知識を深めます。
到達目標	1. 科学的諸理論を背景とした理学療法の科学性、研究課題を探索し、課題解決に向けた研究手法を学び、自身の研究に応用できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回：オリエンテーション、教員紹介 第 2 回：文献紹介、課題発表、ディスカッション 第 3 回：文献紹介、課題発表、ディスカッション 第 4 回：文献紹介、課題発表、ディスカッション 第 5 回：文献紹介、課題発表、ディスカッション 第 6 回：文献紹介、課題発表、ディスカッション 第 7 回：文献紹介、課題発表、ディスカッション 第 8 回：文献紹介、課題発表、ディスカッション 第 9 回：文献紹介、課題発表、ディスカッション 第 10 回：文献紹介、課題発表、ディスカッション 第 11 回：文献紹介、課題発表、ディスカッション 第 12 回：文献紹介、課題発表、ディスカッション 第 13 回：文献紹介、課題発表、ディスカッション 第 14 回：文献紹介、課題発表、ディスカッション 第 15 回：まとめ <担当教員名> 矢倉千昭 矢倉千昭 吉本好延 吉本好延 有菌信一 有菌信一 矢部広樹 矢部広樹 俵 祐一 根地嶋誠 根地嶋誠 金原一宏 金原一宏 大城昌平 大城昌平 授業内容は、授業参加者の関心のある分野・領域に関連した事柄を取り上げ進めます。 第 1 回～7 回まで、関連分野の最新の論文を抄読し、研究課題とその解決理論と方法について討論を行います。毎回少なくとも 1 本の論文を抄読し、授業に参加してください。 研究進捗状況報告会、研究計画検討会前には、受講生と全教員が参加して、各自の研究課題、研究計画の発表会を行います。

学修方法	関連テキスト，論文等の検索と抄読，発表とディスカッション				
評価方法	授業におけるプレゼンテーション（50%），研究計画の立案（50%）				
課題に対するフィードバック	課題発表後、グループ討議したのち、教員よりフィードバックします。				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	自身の興味関心分野の論文等を検索し，課題を明らかにして，独創的な研究テーマと研究方法を検討する。				
オフィスアワー	所属：リハビリテーション科学研究科 時間：月曜日と金曜日の3時限目（11時55分～13時15分） 場所：3504 研究室（矢倉研究室） 上記以外でもメール（chiaki-y@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください				

科目名	理学療法科学特講演習																																
科目責任者	矢倉 千昭																																
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 春semester																																
科目の位置付	3. 幅広い視野と教養を持ち、俯瞰的なものの見方と専門応用力を通じて、新たな知を創造する方法を提案できる																																
科目概要	理学療法科学領域の課題とそれを解決するための理論や方法論に関する知識をもとに、研究計画の立案、研究実施に向けた研究体制の構築を行います。本講義では、文献を調べ、まとめ、発表、ディスカッションを行い、これらを通して知識を深めます。																																
到達目標	2. 科学的諸理論を背景とした理学療法の科学性、研究課題を探索し、課題解決に向けた研究計画を立案し、実施することができる。																																
授業計画	<担当教員名>矢倉千昭, 大城昌平, 有菌信一, 吉本好延, 金原一宏, 根地嶋誠, 矢部広樹, 俵祐一（指導教員が中心に授業を展開し、教員全員が参加する検討会が行われる） <table border="0"> <tr> <td><授業内容・テーマ等></td><td><担当教員名></td></tr> <tr> <td>第 1 回：オリエンテーション</td><td>指導教員</td></tr> <tr> <td>第 2 回：研究テーマの設定①</td><td>指導教員</td></tr> <tr> <td>第 3 回：研究テーマの設定②</td><td>指導教員</td></tr> <tr> <td>第 4 回：研究テーマの設定③</td><td>指導教員</td></tr> <tr> <td>第 5 回：研究テーマの設定④</td><td>指導教員</td></tr> <tr> <td>第 6 回：研究概念枠組みの作成①</td><td>指導教員</td></tr> <tr> <td>第 7 回：研究概念枠組みの作成②</td><td>指導教員</td></tr> <tr> <td>第 8 回：研究概念枠組みの作成③</td><td>指導教員</td></tr> <tr> <td>第 9 回：研究概念枠組みの作成④</td><td>指導教員</td></tr> <tr> <td>第 10 回：研究計画の作成①</td><td>指導教員</td></tr> <tr> <td>第 11 回：研究計画の作成②検討会</td><td>教員全員</td></tr> <tr> <td>第 12 回：研究計画の作成③</td><td>指導教員</td></tr> <tr> <td>第 13 回：研究計画の作成④検討会</td><td>教員全員</td></tr> <tr> <td>第 14 回：倫理申請書の作成①</td><td>指導教員</td></tr> <tr> <td>第 15 回：倫理申請書の作成②</td><td>指導教員</td></tr> </table> 研究進捗状況報告会、研究計画検討会前には、受講生と全教員が参加して、各自の研究課題、研究計画の発表会を行います。	<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>	第 1 回：オリエンテーション	指導教員	第 2 回：研究テーマの設定①	指導教員	第 3 回：研究テーマの設定②	指導教員	第 4 回：研究テーマの設定③	指導教員	第 5 回：研究テーマの設定④	指導教員	第 6 回：研究概念枠組みの作成①	指導教員	第 7 回：研究概念枠組みの作成②	指導教員	第 8 回：研究概念枠組みの作成③	指導教員	第 9 回：研究概念枠組みの作成④	指導教員	第 10 回：研究計画の作成①	指導教員	第 11 回：研究計画の作成②検討会	教員全員	第 12 回：研究計画の作成③	指導教員	第 13 回：研究計画の作成④検討会	教員全員	第 14 回：倫理申請書の作成①	指導教員	第 15 回：倫理申請書の作成②	指導教員
<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>																																
第 1 回：オリエンテーション	指導教員																																
第 2 回：研究テーマの設定①	指導教員																																
第 3 回：研究テーマの設定②	指導教員																																
第 4 回：研究テーマの設定③	指導教員																																
第 5 回：研究テーマの設定④	指導教員																																
第 6 回：研究概念枠組みの作成①	指導教員																																
第 7 回：研究概念枠組みの作成②	指導教員																																
第 8 回：研究概念枠組みの作成③	指導教員																																
第 9 回：研究概念枠組みの作成④	指導教員																																
第 10 回：研究計画の作成①	指導教員																																
第 11 回：研究計画の作成②検討会	教員全員																																
第 12 回：研究計画の作成③	指導教員																																
第 13 回：研究計画の作成④検討会	教員全員																																
第 14 回：倫理申請書の作成①	指導教員																																
第 15 回：倫理申請書の作成②	指導教員																																

学修方法	関連テキスト，論文等の検索と抄読，研究テーマの立案，研究計画書（倫理委員会申請書も含む）の作成，研究の実施				
評価方法	プレゼンテーション（30％），研究計画の立案（30％），研究計画書（倫理委員会申請書も含む）の完成（30％），研究の実施（20％）				
課題に対するフィードバック	課題発表後、グループ討議したのち、教員よりフィードバックします。研究計画書と倫理申請書の作成には個別に指導します。				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	自身の興味関心分野の論文等を検索し，独創的な研究テーマと研究方法を検討し，研究計画書を完成させ，研究を実施する．				
オフィスアワー	所属：リハビリテーション科学研究科 時間：月曜日と金曜日の3時限目（11時55分～13時15分） 場所：3504 研究室（矢倉研究室） 上記以外でもメール（chiaki-y@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください				

科目名	理学療法開発学特講
科目責任者	金原 一宏
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 春
科目の位置付	2. リハビリテーション科学及び近接領域について高度な専門知識・技能を習得し、探求心と論理的思考力によって自ら問題解決を図ることができる
科目概要	神経系、運動器系および内部系障害の理学療法学領域の学問を深め、現在の理学療法の課題とそれを解決するための理論や方法論について考察する。本講義では、領域の最新の理論、知識、技術を修得し、新たな理学療法の理論構築と実践応用について文献を調べ、まとめ、発表、ディスカッションを行い、これらを通して知識を深めます。
到達目標	3. 科学的諸理論を背景とした理学療法の科学性、研究課題を探索し、課題解決に向けた研究手法を学び、自身の研究に応用できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション 第2回：文献紹介，課題発表，ディスカッション 第3回：文献紹介，課題発表，ディスカッション 第4回：文献紹介，課題発表，ディスカッション 第5回：文献紹介，課題発表，ディスカッション 第6回：文献紹介，課題発表，ディスカッション 第7回：文献紹介，課題発表，ディスカッション 第8回：文献紹介，課題発表，ディスカッション 第9回：文献紹介，課題発表，ディスカッション 第10回：文献紹介，課題発表，ディスカッション 第11回：文献紹介，課題発表，ディスカッション 第12回：文献紹介，課題発表，ディスカッション 第13回：文献紹介，課題発表，ディスカッション 第14回：文献紹介，課題発表，ディスカッション 第15回 まとめ <担当教員名> 金原一宏 金原一宏 金原一宏 有菌信一 有菌信一 俵 祐一 俵 祐一 矢倉千昭 矢倉千昭 大城昌平 大城昌平 根地嶋誠 根地嶋誠 吉本好延 吉本好延 授業内容は、授業参加者の関心のある分野に関連した事柄を取り上げ進めます。

学修方法	第1回～7回まで、関連分野の最新の論文を抄読し、研究課題とその解決理論と方法について討論を行います。毎回少なくとも1本の論文を抄読し、授業に参加してください。 研究進捗状況報告会、研究計画検討会前には、受講生と全教員が参加して、各自の研究課題、研究計画の発表会を行います。				
評価方法	授業におけるプレゼンテーション（50%）、研究計画の立案（50%）				
課題に対するフィードバック	・発表会の途中で教員が随時補足していく ・教員フィードバックを通じて補足した点を、確認・フィードバックを行う				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	自身の興味関心分野の論文等を検索し、課題を明らかにして、独創的な研究テーマと研究方法を検討する。				
オフィスアワー	所属：リハビリテーション科学研究科 研究室：3506 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（kazuhiko-k@seirei.ac.jp）でアポイントを取ってください。				

科目名	理学療法開発学特講演習																																
科目責任者	有菌 信一																																
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 春																																
科目の位置付	3. 幅広い視野と教養を持ち、俯瞰的なものの見方と専門応用力を通じて、新たな知を創造する方法を提案できる																																
科目概要	神経系、運動器系および内部系障害の理学療法学領域の課題とそれを解決するための理論や方法論に関する知識をもとに、研究計画の立案、研究実施に向けた研究体制の構築を行います。本講義では、文献を調べ、まとめ、発表、ディスカッションを行い、これらを通して知識を深めます。																																
到達目標	4. 科学的諸理論を背景とした理学療法の科学性、研究課題を探索し、課題解決に向けた研究計画を立案し、実施することができる。																																
授業計画	<担当教員名> 有菌信一、大城昌平、金原一宏、矢倉千昭、吉本好延、根地嶋誠（指導教員が中心に授業を展開し、教員全員が参加する検討会が行われる） <table> <thead> <tr> <th><授業内容・テーマ等></th><th><担当教員名></th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回：オリエンテーション</td><td>指導教員</td></tr> <tr> <td>第2回：研究テーマの設定①</td><td>指導教員</td></tr> <tr> <td>第3回：研究テーマの設定②</td><td>指導教員</td></tr> <tr> <td>第4回：研究テーマの設定③</td><td>指導教員</td></tr> <tr> <td>第5回：研究テーマの設定④</td><td>指導教員</td></tr> <tr> <td>第6回：研究概念枠組みの作成①</td><td>指導教員</td></tr> <tr> <td>第7回：研究概念枠組みの作成②</td><td>指導教員</td></tr> <tr> <td>第8回：研究概念枠組みの作成③</td><td>指導教員</td></tr> <tr> <td>第9回：研究概念枠組みの作成④</td><td>指導教員</td></tr> <tr> <td>第10回：研究計画の作成①</td><td>指導教員</td></tr> <tr> <td>第11回：研究計画の作成②検討会</td><td>教員全員</td></tr> <tr> <td>第12回：研究計画の作成③</td><td>指導教員</td></tr> <tr> <td>第13回：研究計画の作成④</td><td>教員全員</td></tr> <tr> <td>第14回：倫理申請書の作成①</td><td>指導教員</td></tr> <tr> <td>第15回：倫理申請書の作成②</td><td>指導教員</td></tr> </tbody> </table>	<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>	第1回：オリエンテーション	指導教員	第2回：研究テーマの設定①	指導教員	第3回：研究テーマの設定②	指導教員	第4回：研究テーマの設定③	指導教員	第5回：研究テーマの設定④	指導教員	第6回：研究概念枠組みの作成①	指導教員	第7回：研究概念枠組みの作成②	指導教員	第8回：研究概念枠組みの作成③	指導教員	第9回：研究概念枠組みの作成④	指導教員	第10回：研究計画の作成①	指導教員	第11回：研究計画の作成②検討会	教員全員	第12回：研究計画の作成③	指導教員	第13回：研究計画の作成④	教員全員	第14回：倫理申請書の作成①	指導教員	第15回：倫理申請書の作成②	指導教員
<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>																																
第1回：オリエンテーション	指導教員																																
第2回：研究テーマの設定①	指導教員																																
第3回：研究テーマの設定②	指導教員																																
第4回：研究テーマの設定③	指導教員																																
第5回：研究テーマの設定④	指導教員																																
第6回：研究概念枠組みの作成①	指導教員																																
第7回：研究概念枠組みの作成②	指導教員																																
第8回：研究概念枠組みの作成③	指導教員																																
第9回：研究概念枠組みの作成④	指導教員																																
第10回：研究計画の作成①	指導教員																																
第11回：研究計画の作成②検討会	教員全員																																
第12回：研究計画の作成③	指導教員																																
第13回：研究計画の作成④	教員全員																																
第14回：倫理申請書の作成①	指導教員																																
第15回：倫理申請書の作成②	指導教員																																

学修方法	・研究進捗状況報告会，研究計画検討会前には，受講生と全教員が参加して，各自の研究課題，研究計画の発表会を行います．				
評価方法	プレゼンテーション（30％），研究計画の立案（30％），研究計画書（倫理委員会申請書も含む）の完成（30％），研究の実施（20％）				
課題に対するフィードバック	・発表会の途中で教員が随時補足していく ・教員フィードバックを通じて補足した点を、確認・フィードバックを行う				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	自身の興味関心分野の論文等を検索し，独創的な研究テーマと研究方法を検討し，研究計画書を完成させ，研究を実施する．				
オフィスアワー	各指導教員のオフィスアワー				

科目名	理学療法学特別研究
科目責任者	吉本 好延
単位数他	6 単位（180 時間） 選択 通年
科目の位置付	新規性の高い研究課題を自ら発見し、先行研究をレビューし、独創的な研究テーマを設定して、自立して研究計画を立案することができる
科目概要	研究計画書にもとづき、データ集や論文作成など研究プロセスを経験し、科学的根拠に基づいた理学療法評価・治療の立案を目的とした臨床理学療法研究を行い、博士論文を作成する。
到達目標	1. 博士論文の発表および最終試験に合格する。
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名> 吉本好延、有蘭信一、大城昌平、矢倉千昭 第 1-2 回 : オリエンテーション 指導教員 第 3-4 回 : 研究計画の確定(1) 指導教員 第 5-6 回 : 研究計画の確定(2) 指導教員 第 7-8 回 : 研究計画の確定(3) 指導教員 第 9-10 回 : 研究の進捗状況の確認と指導(1) 指導教員 第 11-12 回 : 研究の進捗状況の確認と指導(2) 指導教員 第 13-14 回 : 研究データ解析の確認と指導(1) 指導教員 第 15-16 回 : 研究データ解析の確認と指導(2) 指導教員 第 17-18 回 : 研究データ解析の確認と指導(3) 指導教員 第 19-20 回 : 論文執筆指導(1) 指導教員 第 21-22 回 : 論文執筆指導(2) 指導教員 第 23-24 回 : 論文執筆指導(3) 指導教員 第 25-26 回 : 論文執筆指導(4) 指導教員 第 27-28 回 : 発表指導(1) 指導教員 第 29-30 回 : 発表指導(2) 指導教員 個別指導と、院生全体ミーティングにより各自の研究進捗を確認する。

学修方法	授業では講義とディスカッションをもとに進めますので、積極的な授業参加をお願いします。				
評価方法	課題への取り組みと発表（50%）、ディスカッションへの参加状況（50%）				
課題に対するフィードバック	課題提出後メールや授業、面談などで随時行います				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	事前学習は、研究の方法論だけでなく、研究者としての態度や倫理について書籍やメディアを通じて学んでください。事後学習は、研究の方法論や論文作成方法などを復習し、どのようにすれば自分の主張を他者に伝達し、理解を促すことができるのかを模索してください。				
オフィスアワー	3509 研究室 毎週水曜日 17 時～18 時				

科目名	作業療法科学特講	
科目責任者	伊藤 信寿	
単位数他	2単位（30 時間） 選択 春セメスター	
科目の位置付	2. リハビリテーション科学及び近接領域について高度な専門知識・技能を習得し、探求心と論理的思考力によって自ら問題解決を図ることができる	
科目概要	作業療法専門職に貢献する研究の基礎となる視点及び作業療法所理論について、その概念枠組み、研究法について学ぶ	
到達目標	・ 作業科学における最近の研究動向と課題について説明できる ・ 作業科学における研究方法を説明できる	
授業計画	<授業内容・テーマ等>	<担当教員>
	第 1 回：オリエンテーション：このコース全体の説明	伊藤信寿
	第 2 回：最近の作業科学の研究動向と課題	伊藤信寿
	第 3 回：文献紹介、課題発表、ディスカッション(1)	伊藤信寿
	第 4 回：文献紹介、課題発表、ディスカッション(2)	伊藤信寿
	第 5 回：文献紹介、課題発表、ディスカッション(3)	伊藤信寿
	第 6 回：文献紹介、課題発表、ディスカッション(4)	伊藤信寿
	第 7 回：文献紹介、課題発表、ディスカッション(5)	伊藤信寿
	第 8 回：作業的視点に焦点化した研究論文の検討	新宮尚人
	第 9 回：文献紹介、課題発表、ディスカッション(6)	新宮尚人
	第 10 回：文献紹介、課題発表、ディスカッション(7)	新宮尚人
	第 11 回：文献紹介、課題発表、ディスカッション(8)	新宮尚人
	第 12 回：文献紹介、課題発表、ディスカッション(9)	泉 良太
	第 13 回：文献紹介、課題発表、ディスカッション(10)	泉 良太
	第 14 回：文献紹介、課題発表、ディスカッション(11)	泉 良太
第 15 回：全体のまとめとディスカッション	伊藤信寿	

学修方法	発表・ディスカッションを使ったアクティブラーニングと講義				
評価方法	授業・ディスカッションへの参加(発言内容・論理性・量・態度)：50% 発表とレジュメ：25% レポート：25%				
課題に対するフィードバック	学生の発表後、ディスカッションし、発表及び各学生の発言内容について担当教員がコメントする 提出されたレポートについてコメントする				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	教科書、参考書、資料等を読み、レジュメにまとめる				
オフィスアワー	所属：リハビリテーション科学研究科 研究室：3514 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（naohito-s@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。				

科目名	作業療法科学特講演習	
科目責任者	伊藤 信寿	
単位数他	1 単位(30 時間) 選択 春	
科目の位置付	3. 幅広い視野と教養を持ち、俯瞰的なものの見方と専門応用力を通じて、新たな知を創造する方法を提案できる	
科目概要	作業療法科学領域の課題とそれを解決するための理論や方法論に関する知識をもとに、研究計画の立案、研究実施に向けた研究体制の構築を行います。本講義では、文献を調べ、まとめ、発表、ディスカッションを行い、これらを通して知識を深めます。研究テーマを意識した研究デザインの構築や独創性のある研究デザインを作成することを目指す。	
到達目標	1. 研究テーマを意識した研究デザインの構築や独創性のある研究デザインを作成できる。 2. 研究テーマに関する保健医療福祉の付帯的課題と治療・介入戦略について説明出来る	
授業計画	<授業内容・テーマ>	<担当教員名>
	第1回：コースオリエンテーション	伊藤信寿
	第2回：研究テーマについて、文献検索、文献抄読1	伊藤信寿、新宮尚人、泉 良太
	第3回：研究テーマについて、文献検索、文献抄読2	伊藤信寿、新宮尚人、泉 良太
	第4回：研究テーマについて、文献検索、文献抄読3	伊藤信寿、新宮尚人、泉 良太
	第5回：研究テーマについて、文献検索、文献抄読4	伊藤信寿、新宮尚人、泉 良太
	第6回：研究テーマについて、文献検索、文献抄読5	伊藤信寿、新宮尚人、泉 良太
	第7回：研究テーマにおける研究デザインの作成・検討1	伊藤信寿、新宮尚人、泉 良太
	第8回：研究テーマにおける研究デザインの作成・検討2	伊藤信寿、新宮尚人、泉 良太
	第9回：研究テーマにおける研究デザインの作成・検討3	伊藤信寿、新宮尚人、泉 良太
	第10回：研究テーマにおける研究デザインの作成・検討4	伊藤信寿、新宮尚人、泉 良太
	第11回：研究テーマにおける研究デザインの作成・検討5	伊藤信寿、新宮尚人、泉 良太
	第12回：研究テーマにおける研究デザインの作成・検討6	伊藤信寿、新宮尚人、泉 良太
	第13回：研究テーマにおける研究デザインの作成・検討7	伊藤信寿、新宮尚人、泉 良太
	第14回：研究テーマにおける研究デザインの作成・検討8	伊藤信寿、新宮尚人、泉 良太
	第15回：全体のまとめ	伊藤信寿

学修方法	研究テーマに沿った文献（原則として英文）を読み，履修学生が発表者となり，レジュメを作成して紹介する。				
評価方法	文献抄読のレジュメの作成（25%）と，報告（25%），研究デザインの作成（50%）により評価する				
課題に対するフィードバック	授業時間内でのフィードバックを基本とします。				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	事前学習では，研究論文の枠組みを意識した批判的文献レビューを行ってください。事後学習では，授業時間内でのフィードバックを踏まえて自分の研究計画に反映できるポイントを吟味して下さい。				
オフィスアワー	所属：リハビリテーション科学研究科 研究室：3514 時間については，初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（nobuhisa-i@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。				

科目名	作業療法開発学特講																														
科目責任者	新宮 尚人																														
単位数他	2 単位(30 時間) 選択 春semester																														
科目の位置付	2. リハビリテーション科学及び近接領域について高度な専門知識・技能を習得し、探求心と論理的思考力によって自ら問題解決を図ることができる																														
科目概要	本講座では、作業療法関連領域における実践的課題の吟味と効果的な介入方法を探求する。これまでに学んだ研究方法論を知識基盤とし、よりアウトカムを意識した研究デザインの構築や独創性のある研究計画書作成への足掛かりとすることを目指す。																														
到達目標	・各専門領域における保健医療福祉の具体的課題と治療・介入戦略について説明できる。 ・介入効果の検証、新たな治療・介入戦略への構築など、より高いレベルの研究デザインについて説明できる。																														
授業計画	<授業内容・テーマ等> 担当教員：新宮尚人、伊藤信寿、泉 良太 各専門領域における最新の研究動向と実践的課題について、ディスカッションにより吟味する。履修生は、それを踏まえ関連する国内・外の文献を読み、内容について簡単なレジюмеを作成して紹介する。文献を通じて、研究の独創性、研究デザインの妥当性、研究の到達レベルの確認など、批判的抄読を行うことで自身の研究計画立案の足がかりとする。 ※少なくとも1つの領域で1文献を紹介する。 履修生の専攻・関心により文献選択の相談に応じる。 <table border="0"> <tbody> <tr> <td>第1回. コースオリエンテーション</td><td>新宮尚人</td></tr> <tr> <td>第2回. 精神障害リハビリテーションにおける最新の研究動向と課題</td><td>新宮尚人</td></tr> <tr> <td>第3回. 関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 1</td><td>新宮尚人</td></tr> <tr> <td>第4回. 関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 2</td><td>新宮尚人</td></tr> <tr> <td>第5回. 発達障害リハビリテーションにおける最新の研究動向と課題</td><td>伊藤信寿</td></tr> <tr> <td>第6回. 関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 1</td><td>伊藤信寿</td></tr> <tr> <td>第7回. 関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 2</td><td>伊藤信寿</td></tr> <tr> <td>第8回. 関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 3</td><td>伊藤信寿</td></tr> <tr> <td>第9回. 関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 4</td><td>伊藤信寿</td></tr> <tr> <td>第10回. 身体障害リハビリテーションにおける最新の研究動向と課題</td><td>泉 良太</td></tr> <tr> <td>第11回. 関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 4</td><td>泉 良太</td></tr> <tr> <td>第12回. 関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 5</td><td>泉 良太</td></tr> <tr> <td>第13回. 関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 5</td><td>泉 良太</td></tr> <tr> <td>第14回. 関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 5</td><td>泉 良太</td></tr> <tr> <td>第15回. まとめ</td><td>新宮尚人</td></tr> </tbody> </table> ＊この科目は「実践的な方法による授業」である。 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第3～4回、第6～9回、第11～15回	第1回. コースオリエンテーション	新宮尚人	第2回. 精神障害リハビリテーションにおける最新の研究動向と課題	新宮尚人	第3回. 関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 1	新宮尚人	第4回. 関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 2	新宮尚人	第5回. 発達障害リハビリテーションにおける最新の研究動向と課題	伊藤信寿	第6回. 関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 1	伊藤信寿	第7回. 関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 2	伊藤信寿	第8回. 関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 3	伊藤信寿	第9回. 関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 4	伊藤信寿	第10回. 身体障害リハビリテーションにおける最新の研究動向と課題	泉 良太	第11回. 関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 4	泉 良太	第12回. 関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 5	泉 良太	第13回. 関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 5	泉 良太	第14回. 関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 5	泉 良太	第15回. まとめ	新宮尚人
第1回. コースオリエンテーション	新宮尚人																														
第2回. 精神障害リハビリテーションにおける最新の研究動向と課題	新宮尚人																														
第3回. 関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 1	新宮尚人																														
第4回. 関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 2	新宮尚人																														
第5回. 発達障害リハビリテーションにおける最新の研究動向と課題	伊藤信寿																														
第6回. 関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 1	伊藤信寿																														
第7回. 関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 2	伊藤信寿																														
第8回. 関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 3	伊藤信寿																														
第9回. 関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 4	伊藤信寿																														
第10回. 身体障害リハビリテーションにおける最新の研究動向と課題	泉 良太																														
第11回. 関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 4	泉 良太																														
第12回. 関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 5	泉 良太																														
第13回. 関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 5	泉 良太																														
第14回. 関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 5	泉 良太																														
第15回. まとめ	新宮尚人																														

学修方法	各自の研究テーマに沿った文献（原則として英文）を読み、履修学生が順番に発表者となり、レジュメを作成して紹介する。				
評価方法	計画書の完成度（90%）と、ディスカッションへの参加状況（10%）により評価する				
課題に対するフィードバック	授業時間内でのフィードバックを基本とする。				
指定図書	授業内で適宜資料を提示する				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書	授業内で適宜紹介する				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	事前学習では、研究論文の枠組みを意識した批判的文献レビューを行ってください。事後学習では、授業時間内でのフィードバックを踏まえて自分の研究計画に反映できるポイントを吟味して下さい。				
オフィスアワー	所属：リハビリテーション科学研究科 研究室：新宮が窓口となる。3501 研究室もしくはリハビリテーション学部長室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（naohito-s@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。				

科目名	作業療法開発学特講演習
科目責任者	新宮 尚人
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 春semester
科目の位置付	3. 幅広い視野と教養を持ち、俯瞰的なものの見方と専門応用力を通じて、新たな知を創造する方法を提案できる
科目概要	精神・発達障害に伴う不自由さを抱える対象者に対して、作業療法の実践的課題を明確化し支援の効果的な方法を確立するために、具体的な研究テーマの設定と研究計画書を作成することを主目標とする。さらに、研究計画書に基づき、データ収集から論文作成までの一連の過程をマネジメントし、独力で研究できる能力を修得することを目指す。
到達目標	- 最新の研究に基づいて、新規性のある研究計画書を作成できる。 - 研究計画書に基づき、適切なデータ収集と分析ができる。 - 研究成果を論文にまとめ、発表することが出来る。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 担当教員：新宮尚人、伊藤信寿、泉 良太 研究テーマに関連した論文を精読することにより、研究到達度の確認と研究目的に対する方法を吟味する。これらを通じて具体的な研究計画書を作成し、データ収集の経過報告、データ分析、博士論文の執筆までを行う。計画書の作成後は、主として個別指導の形で進める。 ※授業日程は、受講者との相談の上、決定する 第1回. コースオリエンテーション 第2回. 研究計画書に基づいた研究プロセスの確認 第3回. 研究データ収集の準備 第4回. 研究データ収集の準備 第5回. 研究データ収集 第6回. 研究データ収集 第7回. 研究データ収集 第8回. 研究結果の整理 第9回. 研究結果の整理 第10回. 研究結果の整理 第11回. 研究結果の解釈（考察） 第12回. 研究結果の解釈（考察） 第13回. 博士論文の提出に向けての指導 第14回. 博士論文の提出に向けての指導 第15回. 博士論文の提出に向けての指導 *この科目は「実践的な方法による授業」である。 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：全ての回

学修方法	自身の興味に関連した論文を精読し、研究方法（対象、手続き、評価尺度、分析方法など）を吟味することを通じて、具体的な研究計画書を作成します。				
評価方法	計画書の完成度（90%）と、ディスカッションへの参加状況（10%）により評価する				
課題に対するフィードバック	授業時間内でのフィードバックを基本とします。				
指定図書	授業内で適宜資料を提示する				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書	授業内で適宜紹介する				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	事前学習では、研究論文の枠組みを意識した批判的文献レビューを行ってください。事後学習では、授業時間内でのフィードバックを踏まえて自分の研究計画に反映できるポイントを吟味して下さい。				
オフィスアワー	所属：リハビリテーション科学研究科 研究室：新宮が窓口となる。3501 研究室もしくはリハビリテーション学部長室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（naohito-s@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。				

科目名	作業療法学特別研究
科目責任者	新宮 尚人
単位数他	6 単位 (180 時間) 選択 通年
科目の位置付	4. リハビリテーション科学に関する研究課題を自ら発見し、先行研究の調査と詳読を経て、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる 5. 研究計画に沿って実施し、自立した研究者・専門職者として論文としてまとめ発表することができる 6. 他の専門職者や研究者との連携・協働を通してリーダーシップを発揮し、人々の健康、福祉、安寧および学問の発展に貢献することができる 7. 学術的かつ国際的な視野をもち、グローバルリーダーとして国内外の専門家や学生と交流ができる
科目概要	これまでの学修を踏まえて、各学生は特定の研究課題を選択し、研究計画書を作成し、データ収集・分析を行い、博士論文を作成する過程を通して、研究活動が行える能力を修得する。
到達目標	1. 各学生が自身の研究課題の焦点化を深め、研究計画を作成する 2. 研究計画に沿って、倫理的配慮について第三者評価を得て、資料収集を行う 3. 得られた資料を適切に分析し、論文としてまとめる
授業計画	1 年次春semester : <授業内容・テーマ等> 保健科学研究方法 (質的研究法、量的研究法)、保健科学英語特講などで学修した内容を用いて、先行研究論文の吟味や討論を行い、研究課題について焦点を絞る。 <評価方法> 討論参加度 (30%) 及び課題の焦点化達成度 (70%) 1 年次秋semester : <授業内容・テーマ等> 研究計画を検討会で発表し、研究科委員会構成メンバーから指導を受け、研究計画書を推敲する。 <評価方法> 発表態度 (30%) 発表内容及び研究計画の完成度 (70%) 2 年次春semester : <授業内容・テーマ等> 研究計画書に従って、研究倫理委員会に研究計画の倫理的配慮について申請し、承認を受けた後、調査を実施し、資料を収集する。 <評価方法> 研究計画の倫理的配慮の精度 (40%) 研究計画書の完成度 (60%) 2 年次秋semester : <授業内容・テーマ等> 適宜、指導を受けながら、データ収集および、副論文の作成、学会発表を行う。 <評価方法> データ収集の適切性 (70%) 副論文の作成、学会発表の達成度 (30%) 3 年次春semester : <授業内容・テーマ等> 適宜、指導を受けながら、データ収集の補足及びデータの分析を行い、論文を作成する <評価方法> 論文の完成度 (70%) 第三者の評価による修正の適切性 (30%) 3 年次秋semester : <授業内容・テーマ等>

	第3者の助言、指導を受けながら、論文を完成させる。 <評価方法> 論文の完成度(70%) 第3者の評価による修正の適切性(30%) ＊この科目は「実践的な方法による授業」である。 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：全ての回				
学修方法	ディスカッション、発表				
評価方法	上記、評価方法を用いて、総合的に最終評価を行う。				
課題に対するフィードバック	口頭及び、書面提出物についてはコメントを記し迅速に返却する。				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	授業時に随時連絡				
オフィスアワー	初回授業時に呈示				

科目名	言語聴覚障害学特講																														
科目責任者	谷 哲夫																														
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 春semester																														
科目の位置付	リハビリテーション科学及び近接領域について高度な専門知識・技能を習得し、探求心と論理的思考力によって自ら問題解決を図ることができる																														
科目概要	失語症学およびその治療法に関して最新の理論を含め総合的な理解と知識の体系化を図ります。高次脳機能障害や認知症の症状、臨床とリハビリテーションについて理解と知識の体系化を図ります。また、実践的な医療技術や研究方法の修得を行うとともに、新たな評価や治療方法の開発について研究し、失語症学分野および高次脳機能障害や認知症における高度な臨床技術の実践や科学的研究のできる人材の育成を目指します。																														
到達目標	失語症学、高次脳機能障害や認知症に関する新知見を体系的に理解する。 文献抄読や討論を通して、科学的な思考を身につけ、視野を広げる。																														
授業計画	<担当教員名> 谷哲夫, 小坂美鶴, 大原重洋, 黒崎芳子 <授業内容・テーマ等> <table border="0"> <tr> <td>第 1 回：オリエンテーション</td><td>谷 哲夫</td></tr> <tr> <td>第 2 回：さまざまな言語症状について</td><td>谷 哲夫</td></tr> <tr> <td>第 3 回：失語症の古典的分類と臨床への応用</td><td>谷 哲夫</td></tr> <tr> <td>第 4 回：神経心理学的情報処理モデルと臨床への応用</td><td>谷 哲夫</td></tr> <tr> <td>第 5 回：最近のニューロリハビリテーションの失語症治療への応用</td><td>谷 哲夫</td></tr> <tr> <td>第 6 回：失語症の予後・改善要因の研究</td><td>谷 哲夫</td></tr> <tr> <td>第 7 回：慢性期（生活期）の失語症治療の効果</td><td>谷 哲夫</td></tr> <tr> <td>第 8 回：失語症者・家族の置かれている環境</td><td>谷 哲夫</td></tr> <tr> <td>第 9 回：様々な高次脳機能障害について</td><td>谷哲夫</td></tr> <tr> <td>第 10 回：記憶障害の症状と診断</td><td>谷哲夫</td></tr> <tr> <td>第 11 回：記憶障害の臨床とリハビリテーション</td><td>谷哲夫</td></tr> <tr> <td>第 12 回：前頭葉機能障害の症状と診断</td><td>谷哲夫</td></tr> <tr> <td>第 13 回：前頭葉機能障害の臨床とリハビリテーション</td><td>谷哲夫</td></tr> <tr> <td>第 14 回：認知症研の症状と診断</td><td>谷哲夫</td></tr> <tr> <td>第 15 回：認知症の臨床とリハビリテーション</td><td>谷哲夫</td></tr> </table>	第 1 回：オリエンテーション	谷 哲夫	第 2 回：さまざまな言語症状について	谷 哲夫	第 3 回：失語症の古典的分類と臨床への応用	谷 哲夫	第 4 回：神経心理学的情報処理モデルと臨床への応用	谷 哲夫	第 5 回：最近のニューロリハビリテーションの失語症治療への応用	谷 哲夫	第 6 回：失語症の予後・改善要因の研究	谷 哲夫	第 7 回：慢性期（生活期）の失語症治療の効果	谷 哲夫	第 8 回：失語症者・家族の置かれている環境	谷 哲夫	第 9 回：様々な高次脳機能障害について	谷哲夫	第 10 回：記憶障害の症状と診断	谷哲夫	第 11 回：記憶障害の臨床とリハビリテーション	谷哲夫	第 12 回：前頭葉機能障害の症状と診断	谷哲夫	第 13 回：前頭葉機能障害の臨床とリハビリテーション	谷哲夫	第 14 回：認知症研の症状と診断	谷哲夫	第 15 回：認知症の臨床とリハビリテーション	谷哲夫
第 1 回：オリエンテーション	谷 哲夫																														
第 2 回：さまざまな言語症状について	谷 哲夫																														
第 3 回：失語症の古典的分類と臨床への応用	谷 哲夫																														
第 4 回：神経心理学的情報処理モデルと臨床への応用	谷 哲夫																														
第 5 回：最近のニューロリハビリテーションの失語症治療への応用	谷 哲夫																														
第 6 回：失語症の予後・改善要因の研究	谷 哲夫																														
第 7 回：慢性期（生活期）の失語症治療の効果	谷 哲夫																														
第 8 回：失語症者・家族の置かれている環境	谷 哲夫																														
第 9 回：様々な高次脳機能障害について	谷哲夫																														
第 10 回：記憶障害の症状と診断	谷哲夫																														
第 11 回：記憶障害の臨床とリハビリテーション	谷哲夫																														
第 12 回：前頭葉機能障害の症状と診断	谷哲夫																														
第 13 回：前頭葉機能障害の臨床とリハビリテーション	谷哲夫																														
第 14 回：認知症研の症状と診断	谷哲夫																														
第 15 回：認知症の臨床とリハビリテーション	谷哲夫																														

学修方法	講義および討論				
評価方法	授業参加状況 30% 文献抄読・レポート 70%				
課題に対するフィードバック	授業の中で適宜行う				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書	下記記載のとおり				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
高次脳機能障害学 第3版	阿部 晶子 編集	医学書院	4800	9784260043069	1
失語症学 第3版	藤田 郁代 編集	医学書院	5000	9784260043076	1
事前・事後学修	資料の事前配布 教科書の予習 授業の中で適宜指示する				
オフィスアワー	所属：リハビリテーション科学研究科 谷 哲夫：3406 研究室 毎週火曜日 III限 (tetsuo-t@seirei.ac.jp) 上記以外でもメールで遠慮なくアポイントを取ってください。				

科目名	言語聴覚障害学特講演習
科目責任者	谷 哲夫
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 春semester
科目の位置付	3. 幅広い視野と教養を持ち、俯瞰的なものの見方と専門応用力を通じて、新たな知を創造する方法を提案できる
科目概要	研究テーマを決め、関連する文献を検索し文献カードを作成する。文献のクリティカル・レビュー、ディスカッションを通して、研究目的、方法を明らかにし、研究計画の立案を行う
到達目標	1. 最新の研究に基づいて、新規性のある研究計画書を立案できる 2. 研究計画書に基づき、適切なデータ収集と分析ができる 3. 研究成果を論文にまとめ、発表することができる
授業計画	<担当教員名> 谷 哲夫, 小坂美鶴, 大原重洋, 黒崎芳子 <授業内容・テーマ等> 第 1 回: オリエンテーション 第 2 回: 研究計画立案までの手順について 第 3 回: 研究方法について 第 4 回: データ収集方法について 第 5 回: データの分析方法について 第 6 回-15 回: 研究計画立案に向けたディスカッション

学修方法	講義および討論(遠隔可)				
評価方法	計画書の完成度 90% 主体的参加状況 10%				
課題に対するフィードバック	授業の中で適宜行う				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書	京極真「セラピストのための研究論文の書き方ガイド」三輪書店				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	指定図書を事前に読んで理解する				
オフィスアワー	所属：リハビリテーション科学研究科 谷 哲夫：3406 研究室 毎週火曜日 III限 (tetsuo-t@seirei.ac.jp) 上記以外でもメールで遠慮なくアポイントを取ってください。				

科目名	摂食嚥下障害学特講
科目責任者	柴本 勇
単位数他	2単位（30時間） 選択 春
科目の位置付	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	摂食嚥下障害に関する最新の知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付けること、また問題解決力を身に着けることを目標に、メカニズム・評価・治療・リスクマネジメント・多職種連携について、文献抄読や討論を行いながら理解を深め上記の力を高める。
到達目標	1. 摂食嚥下障害に対する新知見を体系的に理解し説明できる 2. 文献抄読や討論を通して、科学的でかつ専門的な思考を身に付けることができる
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション 第2回：摂食嚥下障害のメカニズムに関する研究について 第3回：摂食嚥下障害の評価に関する研究について 第4回：摂食嚥下障害の治療法に関する研究について 第5回：摂食嚥下障害のリスクマネジメントに関する研究について 第6回：摂食嚥下障害の職種間連携に関する研究について 第7-14回：文献抄読 第15回：まとめ

学修方法	グループ学習やWebclass等を用いて学修を行います。 遠隔システムを用いた学修も可能。				
評価方法	専門的知識（口頭試問）30%、文献抄読・レポート 70%				
課題に対するフィードバック	講義・文献を読み、疑問点についてディスカッションします。				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	文献等を事前に読んで内容を理解する				
オフィスアワー	所属：リハビリテーション科学研究科 研究室：3408 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（isamu-s@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。				

科目名	摂食嚥下障害学特講演習
科目責任者	柴本 勇
単位数他	1単位（30時間） 選択 春
科目の位置付	(4) 研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5) 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。
科目概要	摂食嚥下障害学特講（摂食嚥下障害）を踏まえ、国内外の論文を抄読し、従来の摂食嚥下リハビリテーションの問題点を考察し、新たな評価と治療方法の開発に必要な課題とそれらを明らかにするための研究方法について検討する。
到達目標	1. 最新の研究に基づいて、新規性のある研究計画を立案できる。 2. 研究計画書に基づき、適切なデータ収集と分析ができる。 3. 研究成果を論文にまとめ、発表することができる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 各自の研究テーマに沿って、論文抄読を行い、新たな言語聴覚療法の知見を探索し、研究計画を立案する。具体的な研究計画書を作成し、データ収集、分析、博士論文の執筆を行う。 第1回：オリエンテーション 第2-4回：データ分析 第5-7回：研究計画書再検討 第8-10回：データ再収集、分析 第11-13回：論文執筆 第14回：論文提出

学修方法	グループ学習やWebclass 等を用いて学修を行います。				
評価方法	研究論文 50%、研究計画書 30%、発表 20%				
課題に対するフィードバック	疑問点についてディスカッションします。				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	自ら研究テーマを絞り、客観的な資料に基付いて計画的に論文執筆を進める。 テーマに関連した文献を読み、まとめる。				
オフィスアワー	所属：リハビリテーション科学研究科 研究室：3408 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（isamu-s@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。				

科目名	言語聴覚学特別研究
科目責任者	柴本 勇
単位数他	6 単位（180 時間） 選択 通年
科目の位置付	(4) 研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5) 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。
科目概要	これまでの学習を踏まえて、各学生は特定の研究課題を選択し、研究計画書を作成し、データ収集・分析を行い、博士論文を作成する過程を通して、研究活動が行える能力を修得する。
到達目標	1. 各学生が自身の研究課題の焦点化を深め、研究計画を作成する 2. 研究計画に沿って、倫理的配慮について第3者評価を得て、資料収集を行う 3. 得られた資料を適切に分析し、論文としてまとめる
授業計画	<授業内容・テーマ等> 1 年次春semester：保健科学研究方法（質的研究法、量的研究法）、保健科学英語特講などで学修した内容を用いて、先行研究論文の吟味や討論を行い、研究課題について焦点を絞る。 <評価方法> 討論参加度（30%）及び課題の焦点化達成度（70%） 1 年次秋semester：研究計画を検討会で発表し、研究科委員会構成メンバーから指導を受け、研究計画書を推敲する。 発表態度（30%）発表内容及び研究計画の完成度（70%） 2 年次春semester：研究計画書に従って、研究倫理委員会に研究計画の倫理的配慮について申請し、承認を受けた後、調査を実施し、資料を収集する。研究計画の倫理的配慮の精度（40%）研究計画書の完成度（60%） 2 年次秋semester：適宜、指導を受けながら、データ収集および、副論文の作成、学会発表を行う。 データ収集の適切性（70%）副論文の作成、学会発表の達成度（30%） 3 年次春semester：適宜、指導を受けながら、データ収集の補足及びデータの分析を行い、論文を作成する 論文の完成度（70%）第3者の評価による修正の貞節性（30%） 3 年次秋semester：第3者の助言、指導を受けながら、論文を完成させる。 論文の完成度（70%）第3者の評価による修正の貞節性（30%）

学修方法	ディスカッション、発表				
評価方法	上記、評価方法を用いて、総合的に最終評価を行う。				
課題に対するフィードバック	口頭及び、書面提出物についてはコメントを記し迅速に返却する				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	自身の興味関心領域の論文等を検索し、独創的な研究テーマと研究方法を検討し、研究計画書を完成させ、研究を実施する。				
オフィスアワー	所属：リハビリテーション科学研究科 研究室：3408(柴本)、小坂(3402) 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（isamu-s@seirei.ac.jp：柴本、mitsuru-k@seirei.ac.jp：小坂）で遠慮なくアポイントを取ってください。				